

家計の金融資産が減少

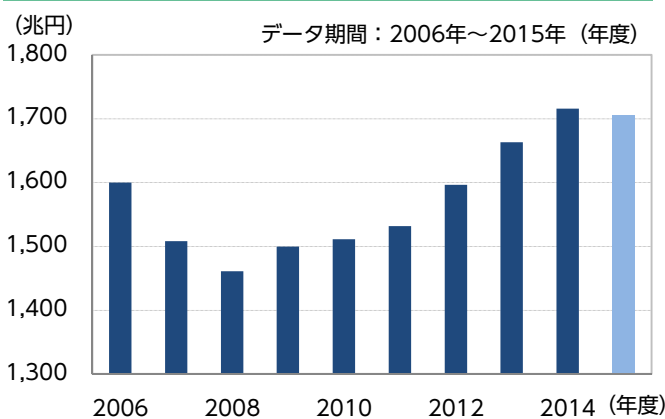
2015年度末は前年度末比で7年ぶりにマイナス

日本銀行が6月17日に発表した2015年度末（2016年3月末）の資金循環統計によれば、家計の金融資産残高は1年前に比べ0.6%減少し1,706兆円となりました。マイナスは7年振り（図表1）、減少率は0.6%と低いものの、金額に直せば10兆円の減少になります。

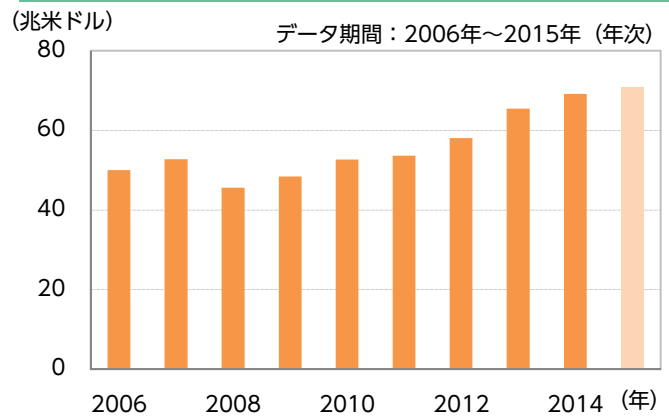
減少の背景として、円安・株高の流れが一転して円高・株安に転じたこと、新興国等世界景気の先行き不透明感からリスク回避姿勢が強まったこと等があるようです。1月29日にマイナス金利が導入されたにも関わらず現金・預金は増加しました。株式等や投資信託の残高は2014年度まで3年連続で増加していましたが、2015年度はマイナスに転じています。日本銀行は「家計の金融資産の減少は、株式や投信の評価額の減少の影響が大きい」と説明しています。なお、米国の家計金融資産は年ベースで増加基調を続けています（図表2）。

家計の金融資産の大半を占める現金・預金は前年度1.3%増の894兆円となりました（図表3）。家計金融資産の構成比率を比較すると、日本は米国に比べて現金・預金の保有が多くなっています（図表3、4）。日本人は米国人に比べ現金志向が強いと言われており、円高・株安の進行を嫌気し、株式や投資信託を処分して預金などに移す動きがあったとみられます。

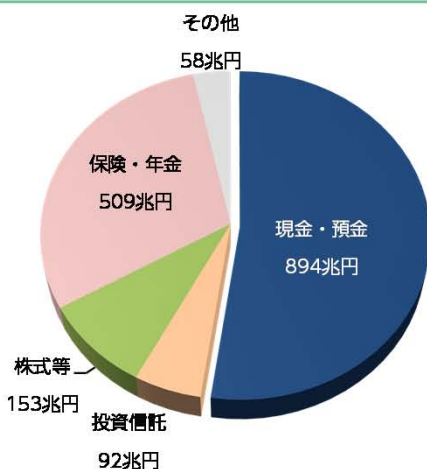
図表1：日本の家計金融資産の推移



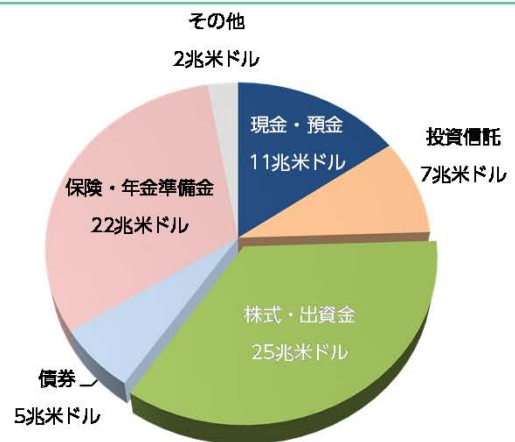
図表2：米国の家計金融資産の推移



図表3：日本の家計金融資産の構成（2015年度末）



図表4：米国の家計金融資産の構成（2015年末）



出所：図表1、図表3は日本銀行のデータ、図表2、図表4はFRBのデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではありません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号
加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント